

科目名	初等図画工作Ⅰ			担当教員	桂川 成美
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE104
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割、児童の表現の理解について講義、演習を行う。				
到達目標及びテーマ	美術の基礎理論・技法・道具の使用法等について理解することと、自身の表現力を高めることで、子どもの表現を理解し評価することができる。表現、鑑賞体験を重ね、幼稚園、小学校教育における教科の意義と役割を理解できる。				
授業の概要	色彩、構成デッサン、立体制作、総合演習等を行い、自らの美術表現の基礎能力を高める。さらに、水彩絵の具等の特性と使用法、基礎的な道具類の使用法も演習を通して学ぶ。				

授業計画	
第1回	教科の目的と内容。教室用具の説明。 小学校における教科の目的について考える。
第2回	鉛筆デッサン「描く力」－観て描くということ
第3回	鉛筆デッサン「描く力」－理解して描く
第4回	色彩基礎一色についての理解を深める。
第5回	色彩基礎一色による表現の広がり。
第6回	平面構成「構図に注目して」－構図による効果
第7回	平面構成「構図に注目して」－構成について理解を深める。
第8回	技法演習－にじみ、マーブリング、ドリッピング（水彩絵の具を中心として）
第9回	技法演習－デカルコマニー、スパッタリング、スクラッチ、フロッタージュ（クレヨンを中心として） 画材の特性や技法の理解。
第10回	立体構成「動き、量」－自然物のデッサン
第11回	立体構成「動き、量」－デッサンを基にした紙工作による立体制作。立体的な見方を身につける。
第12回	総合造形演習「素材との出会い」－身近な材料を組み合わせる（ビニール、紙コップ）
第13回	総合造形演習「素材との出会い」－共同制作 素材の良さに気づきそれを生かした表現活動。
第14回	鑑賞演習「日本と西洋」 美術史の概論的理解。
第15回	身近な道具の使用法 基礎的な道具の使い方と注意点の理解。 まとめ（１～15回の内容について）

事前学修	0.5時間	身近にあるポスターなどを見て、画面構成の工夫を見つける。立体の視点での自然物の観察。色彩基礎の確認。美術年表予習。身近な道具を見直す。指定する画材の購入。
事後学修	0.5時間	配布物の復習と授業の振り返り。立体制作のポイントを整理する。デッサン抽象表現についての理解を深める。美術史の復習。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50%、提出物50%
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。 提出課題に未提出があった場合は、失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
つくる・見る・学ぶ 美術の きほん	京都市立芸術大学美術教育研 究室	日本文教出版	978-536-64999-5	なし
参考資料				

科目名	初等図画工作Ⅰ			担当教員	山本 政幸
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE104
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割、児童の表現の理解について講義、演習を行う。				
到達目標及びテーマ	美術の基礎理論・技法・道具の使用法等について理解することと、自身の表現力を高めることで、子どもの表現を理解し評価することができる。表現、鑑賞体験を重ね、幼稚園、小学校教育における教科の意義と役割を理解できる。				
授業の概要	色彩、構成デッサン、立体制作、総合演習等を行い、自らの美術表現の基礎能力を高める。さらに、水彩絵の具等の特性と使用法、基礎的な道具類の使用法も演習を通して学ぶ。				

授業計画	
第1回	教科の目的と内容。教室用具の説明。 小学校における教科の目的について考える。
第2回	鉛筆デッサン「描く力」－観て描くということ
第3回	鉛筆デッサン「描く力」－理解して描く
第4回	色彩基礎一色についての理解を深める。
第5回	色彩基礎一色による表現の広がり。
第6回	平面構成「構図に注目して」－構図による効果
第7回	平面構成「構図に注目して」－構成について理解を深める。
第8回	技法演習－にじみ、マーブリング、ドリッピング（水彩絵の具を中心として）
第9回	技法演習－デカルコマニー、スパッタリング、スクラッチ、フロッタージュ（クレヨンを中心として） 画材の特性や技法の理解。
第10回	立体構成「動き、量」－自然物のデッサン
第11回	立体構成「動き、量」－デッサンを基にした紙工作による立体制作。立体的な見方を身につける。
第12回	総合造形演習「素材との出会い」－身近な材料を組み合わせる（ビニール、紙コップ）
第13回	総合造形演習「素材との出会い」－共同制作 素材の良さに気づきそれを生かした表現活動。
第14回	鑑賞演習「日本と西洋」 美術史の概論的理解。
第15回	身近な道具の使用法 基礎的な道具の使い方と注意点の理解。 まとめ（１～15回の内容について）

事前学修	0.5時間	身近にあるポスターなどを見て、画面構成の工夫を見つける。立体の視点での自然物の観察。色彩基礎の確認。美術年表予習。身近な道具を見直す。指定する画材の購入。
事後学修	0.5時間	配布物の復習と授業の振り返り。立体制作のポイントを整理する。デッサン抽象表現についての理解を深める。美術史の復習。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50%、提出物50%
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。 提出課題に未提出があった場合は、失格となる。		

教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
つくる・見る・学ぶ 美術の きほん		京都市立芸術大学美術教育研 究室	日本文教出版	978-536-64999-5	なし
参考資料					

科目名	初等図画工作Ⅰ			担当教員	児玉 宗之	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE104	
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割、児童の表現の理解について講義、演習を行う。					
到達目標及びテーマ	美術の基礎理論・技法・道具の使用法等について理解することと、自身の表現力を高めることで、子どもの表現を理解し評価することができる。表現、鑑賞体験を重ね、幼稚園、小学校教育における教科の意義と役割を理解できる。					
授業の概要	色彩、構成デッサン、立体制作、総合演習等を行い、自らの美術表現の基礎能力を高める。さらに、水彩絵の具等の特性と使用法、基礎的な道具類の使用法も演習を通して学ぶ。					

授業計画	
第1回	教科の目的と内容。教室用具の説明。 小学校における教科の目的について考える。
第2回	鉛筆デッサン「描く力」－観て描くということ
第3回	鉛筆デッサン「描く力」－理解して描く
第4回	色彩基礎一色についての理解を深める。
第5回	色彩基礎一色による表現の広がり。
第6回	平面構成「構図に注目して」－構図による効果
第7回	平面構成「構図に注目して」－構成について理解を深める。
第8回	技法演習－にじみ、マープリング、ドリッピング（水彩絵の具を中心として）
第9回	技法演習－デカルコマニー、スパッタリング、スクラッチ、フロッタージュ（クレヨンを中心として） 画材の特性や技法の理解。
第10回	立体構成「動き、量」－自然物のデッサン
第11回	立体構成「動き、量」－デッサンを基にした紙工作による立体制作。立体的な見方を身につける。
第12回	総合造形演習「素材との出会い」－身近な材料を組み合わせる（ビニール、紙コップ）
第13回	総合造形演習「素材との出会い」－共同制作 素材の良さに気づきそれを生かした表現活動。
第14回	鑑賞演習「日本と西洋」 美術史の概論的理解。
第15回	身近な道具の使用法 基礎的な道具の使い方と注意点の理解。 まとめ（１～15回の内容について）

事前学修	0.5時間	身近にあるポスターなどを見て、画面構成の工夫を見つける。立体の視点での自然物の観察。色彩基礎の確認。美術年表予習。身近な道具を見直す。指定する画材の購入。
事後学修	0.5時間	配布物の復習と授業の振り返り。立体制作のポイントを整理する。デッサン抽象表現についての理解を深める。美術史の復習。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50%、提出物50%
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。 提出課題に未提出があった場合は、失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
つくる・見る・学ぶ 美術の きほん	京都市立芸術大学美術教育研 究室	日本文教出版	978-536-64999-5	なし
参考資料				

科目名	初等図画工作Ⅰ			担当教員	高田 吉朗	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1SRE104
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割、児童の表現の理解について講義、演習を行う。					
到達目標及びテーマ	美術の基礎理論・技法・道具の使用法等について理解することと、自身の表現力を高めることで、子どもの表現を理解し評価することができる。表現、鑑賞体験を重ね、幼稚園、小学校教育における教科の意義と役割を理解できる。					
授業の概要	色彩、構成デッサン、立体制作、総合演習等を行い、自らの美術表現の基礎能力を高める。さらに、水彩絵の具等の特性と使用法、基礎的な道具類の使用法も演習を通して学ぶ。					

授業計画	
第1回	教科の目的と内容。教室用具の説明。 小学校における教科の目的について考える。
第2回	鉛筆デッサン「描く力」－観て描くということ
第3回	鉛筆デッサン「描く力」－理解して描く
第4回	色彩基礎一色についての理解を深める。
第5回	色彩基礎一色による表現の広がり。
第6回	平面構成「構図に注目して」－構図による効果
第7回	平面構成「構図に注目して」－構成について理解を深める。
第8回	技法演習－にじみ、マーブリング、ドリッピング（水彩絵の具を中心として）
第9回	技法演習－デカルコマニー、スパッタリング、スクラッチ、フロッタージュ（クレヨンを中心として） 画材の特性や技法の理解。
第10回	立体構成「動き、量」－自然物のデッサン
第11回	立体構成「動き、量」－デッサンを基にした紙工作による立体制作。立体的な見方を身につける。
第12回	総合造形演習「素材との出会い」－身近な材料を組み合わせる（ビニール、紙コップ）
第13回	総合造形演習「素材との出会い」－共同制作 素材の良さに気づきそれを生かした表現活動。
第14回	鑑賞演習「日本と西洋」 美術史の概論的理解。
第15回	身近な道具の使用法 基礎的な道具の使い方と注意点の理解。 まとめ（１～15回の内容について）

事前学修	0.5時間	身近にあるポスターなどを見て、画面構成の工夫を見つける。立体の視点での自然物の観察。色彩基礎の確認。美術年表予習。身近な道具を見直す。指定する画材の購入。
事後学修	0.5時間	配布物の復習と授業の振り返り。立体制作のポイントを整理する。デッサン抽象表現についての理解を深める。美術史の復習。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50%、提出物50%
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。 提出課題に未提出があった場合は、失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
つくる・見る・学ぶ 美術の きほん	京都市立芸術大学美術教育研 究室	日本文教出版	978-536-64999-5	なし
参考資料				

科目名	初等図画工作Ⅰ			担当教員	早矢仕 晶子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE104	
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割、児童の表現の理解について講義、演習を行う。					
到達目標及びテーマ	美術の基礎理論・技法・道具の使用法等について理解することと、自身の表現力を高めることで、子どもの表現を理解し評価することができる。表現、鑑賞体験を重ね、幼稚園、小学校教育における教科の意義と役割を理解できる。					
授業の概要	色彩、構成デッサン、立体制作、総合演習等を行い、自らの美術表現の基礎能力を高める。さらに、水彩絵の具等の特性と使用法、基礎的な道具類の使用法も演習を通して学ぶ。					

授業計画	
第1回	教科の目的と内容。教室用具の説明。 小学校における教科の目的について考える。
第2回	鉛筆デッサン「描く力」－観て描くということ
第3回	鉛筆デッサン「描く力」－理解して描く
第4回	色彩基礎一色についての理解を深める。
第5回	色彩基礎一色による表現の広がり。
第6回	平面構成「構図に注目して」－構図による効果
第7回	平面構成「構図に注目して」－構成について理解を深める。
第8回	技法演習－にじみ、マーブリング、ドリッピング（水彩絵の具を中心として）
第9回	技法演習－デカルコマニー、スパッタリング、スクラッチ、フロッタージュ（クレヨンを中心として） 画材の特性や技法の理解。
第10回	立体構成「動き、量」－自然物のデッサン
第11回	立体構成「動き、量」－デッサンを基にした紙工作による立体制作。立体的な見方を身につける。
第12回	総合造形演習「素材との出会い」－身近な材料を組み合わせる（ビニール、紙コップ）
第13回	総合造形演習「素材との出会い」－共同制作 素材の良さに気づきそれを生かした表現活動。
第14回	鑑賞演習「日本と西洋」 美術史の概論的理解。
第15回	身近な道具の使用法 基礎的な道具の使い方と注意点の理解。 まとめ（１～15回の内容について）

事前学修	0.5時間	身近にあるポスターなどを見て、画面構成の工夫を見つける。立体の視点での自然物の観察。色彩基礎の確認。美術年表予習。身近な道具を見直す。指定する画材の購入。
事後学修	0.5時間	配布物の復習と授業の振り返り。立体制作のポイントを整理する。デッサン抽象表現についての理解を深める。美術史の復習。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50%、提出物50%
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。 提出課題に未提出があった場合は、失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
つくる・見る・学ぶ 美術の きほん	京都市立芸術大学美術教育研 究室	日本文教出版	978-536-64999-5	なし
参考資料				

科目名	初等図画工作Ⅰ			担当教員	西村 志磨	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1SRE104
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割、児童の表現の理解について講義、演習を行う。					
到達目標及びテーマ	美術の基礎理論・技法・道具の使用法等について理解することと、自身の表現力を高めることで、子どもの表現を理解し評価することができる。表現、鑑賞体験を重ね、幼稚園、小学校教育における教科の意義と役割を理解できる。					
授業の概要	色彩、構成デッサン、立体制作、総合演習等を行い、自らの美術表現の基礎能力を高める。さらに、水彩絵の具等の特性と使用法、基礎的な道具類の使用法も演習を通して学ぶ。					

授業計画	
第1回	教科の目的と内容。教室用具の説明。 小学校における教科の目的について考える。
第2回	鉛筆デッサン「描く力」－観て描くということ
第3回	鉛筆デッサン「描く力」－理解して描く
第4回	色彩基礎一色についての理解を深める。
第5回	色彩基礎一色による表現の広がり。
第6回	平面構成「構図に注目して」－構図による効果
第7回	平面構成「構図に注目して」－構成について理解を深める。
第8回	技法演習－にじみ、マーブリング、ドリッピング（水彩絵の具を中心として）
第9回	技法演習－デカルコマニー、スパッタリング、スクラッチ、フロッタージュ（クレヨンを中心として） 画材の特性や技法の理解。
第10回	立体構成「動き、量」－自然物のデッサン
第11回	立体構成「動き、量」－デッサンを基にした紙工作による立体制作。立体的な見方を身につける。
第12回	総合造形演習「素材との出会い」－身近な材料を組み合わせる（ビニール、紙コップ）
第13回	総合造形演習「素材との出会い」－共同制作 素材の良さに気づきそれを生かした表現活動。
第14回	鑑賞演習「日本と西洋」 美術史の概論的理解。
第15回	身近な道具の使用法 基礎的な道具の使い方と注意点の理解。 まとめ（１～15回の内容について）

事前学修	0.5時間	身近にあるポスターなどを見て、画面構成の工夫を見つける。立体の視点での自然物の観察。色彩基礎の確認。美術年表予習。身近な道具を見直す。指定する画材の購入。
事後学修	0.5時間	配布物の復習と授業の振り返り。立体制作のポイントを整理する。デッサン抽象表現についての理解を深める。美術史の復習。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50%、提出物50%
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。 提出課題に未提出があった場合は、失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
つくる・見る・学ぶ 美術の きほん	京都市立芸術大学美術教育研 究室	日本文教出版	978-536-64999-5	なし
参考資料				

科目名	初等図画工作Ⅱ			担当教員	早矢仕 晶子	
単位	1単位	講義区分			ナンバリング	ED3SRE105
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や、児童の表現の理解について講義演習を行う。					
到達目標及びテーマ	初等図画工作Ⅰを踏まえ、創造的思考や技能を培うことを通して、こどもにとっての表現の意味や意義について考えることができる。また、鑑賞教育の可能性について理解できる。					
授業の概要	デザイン、絵画、立体、版画、鑑賞等の演習をおこなう。技法、技術、創造的思考の修得に加え、制作の過程の重要性を知る。					

授業計画	
第1回	教科の目的と内容。教室、用具の説明。 意欲的にとりくみ、自己の表現を探る。
第2回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ーデザインの意味
第3回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ー参考例の鑑賞
第4回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ー本制作 デザインする意味を考える。
第5回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー主題について
第6回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー画材の活用
第7回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー表現技法
第8回	立体演習「カービング、モデリング」ー立体表現の可能性
第9回	立体演習「カービング、モデリング」ー粘土での制作
第10回	立体演習「木工、金工、陶芸」ー匠の技鑑賞
第11回	立体演習「木工、金工、陶芸」ーテラコッタ粘土での制作。彫塑、工芸に関する技法、表現の理解。
第12回	版画演習「凸版、凹版」ー版画技法について
第13回	版画演習「凸版、凹版」ー木版画 構図・彫り
第14回	版画演習「凸版、凹版」ー刷りの効果。版画技法の理解
第15回	鑑賞演習 鑑賞の楽しみ方を理解し、子供の鑑賞活動のあり方について考える。

事前学修	0.5時間	身近なものを色、形、用途などの視点から見つめる。遠近法についての予習。彫刻、工芸作品の鑑賞。作品の構想を練る。美術館、ギャラリーでの鑑賞活動の実践。指定の画材の購入。
事後学修	0.5時間	初等図画工作Ⅰの復習。作品制作の過程を振り返り考察を深める。技法についてまとめ理解を深める。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50％、提出作品50％
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。提出課題に未提出があった場合は、失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

つくる・見る・学ぶ美術のき ほん	京都市立芸術大学美術教育研 究会	日本文教出版	978-4-536-64999—5	初等図画工作Ⅰの教科書と同 じ
参考資料				

科目名	初等図画工作Ⅱ			担当教員	桂川 成美	
単位	1単位	講義区分			ナンバリング	ED3SRE105
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ の要素	ｸﾞﾙｰﾌﾞﾜｰｸ					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や、児童の表現の理解について講義演習を行う。					
到達目標及びテーマ	初等図画工作Ⅰを踏まえ、創造的思考や技能を培うことを通して、こどもにとっての表現の意味や意義について考えることができる。また、鑑賞教育の可能性について理解できる。					
授業の概要	デザイン、絵画、立体、版画、鑑賞等の演習をおこなう。技法、技術、創造的思考の修得に加え、制作の過程の重要性を知る。					

授業計画	
第1回	教科の目的と内容。教室、用具の説明。 意欲的にとりくみ、自己の表現を探る。
第2回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ーデザインの意味
第3回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ー参考例の鑑賞
第4回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ー本制作 デザインする意味を考える。
第5回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー主題について
第6回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー画材の活用
第7回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー表現技法
第8回	立体演習「カービング、モデリング」ー立体表現の可能性
第9回	立体演習「カービング、モデリング」ー粘土での制作
第10回	立体演習「木工、金工、陶芸」ー匠の技鑑賞
第11回	立体演習「木工、金工、陶芸」ーテラコッタ粘土での制作。彫塑、工芸に関する技法、表現の理解。
第12回	版画演習「凸版、凹版」ー版画技法について
第13回	版画演習「凸版、凹版」ー木版画 構図・彫り
第14回	版画演習「凸版、凹版」ー刷りの効果。版画技法の理解
第15回	鑑賞演習 鑑賞の楽しみ方を理解し、子供の鑑賞活動のあり方について考える。

事前学修	0.5時間	身近なものを色、形、用途などの視点から見つめる。遠近法についての予習。彫刻、工芸作品の鑑賞。作品の構想を練る。美術館、ギャラリーでの鑑賞活動の実践。指定の画材の購入。
事後学修	0.5時間	初等図画工作Ⅰの復習。作品制作の過程を振り返り考察を深める。技法についてまとめ理解を深める。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50％、提出作品50％
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。提出課題に未提出があった場合は、失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

つくる・見る・学ぶ美術のき ほん	京都市立芸術大学美術教育研 究会	日本文教出版	978-4-536-64999—5	初等図画工作Ⅰの教科書と同 じ
参考資料				

科目名	初等図画工作Ⅱ			担当教員	河西 栄二	
単位	1単位	講義区分			ナンバリング	ED3SRE105
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
‘アクティブ・ラーニング’の要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や、児童の表現の理解について講義演習を行う。					
到達目標及びテーマ	初等図画工作Ⅰを踏まえ、創造的思考や技能を培うことを通して、こどもにとっての表現の意味や意義について考えることができる。また、鑑賞教育の可能性について理解できる。					
授業の概要	デザイン、絵画、立体、版画、鑑賞等の演習をおこなう。技法、技術、創造的思考の修得に加え、制作の過程の重要性を知る。					

授業計画	
第1回	教科の目的と内容。教室、用具の説明。 意欲的にとりくみ、自己の表現を探る。
第2回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ーデザインの意味
第3回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ー参考例の鑑賞
第4回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ー本制作 デザインする意味を考える。
第5回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー主題について
第6回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー画材の活用
第7回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー表現技法
第8回	立体演習「カービング、モデリング」ー立体表現の可能性
第9回	立体演習「カービング、モデリング」ー粘土での制作
第10回	立体演習「木工、金工、陶芸」ー匠の技鑑賞
第11回	立体演習「木工、金工、陶芸」ーテラコッタ粘土での制作。彫塑、工芸に関する技法、表現の理解。
第12回	版画演習「凸版、凹版」ー版画技法について
第13回	版画演習「凸版、凹版」ー木版画 構図・彫り
第14回	版画演習「凸版、凹版」ー刷りの効果。版画技法の理解
第15回	鑑賞演習 鑑賞の楽しみ方を理解し、子供の鑑賞活動のあり方について考える。

事前学修	0.5時間	身近なものを色、形、用途などの視点から見つめる。遠近法についての予習。彫刻、工芸作品の鑑賞。作品の構想を練る。美術館、ギャラリーでの鑑賞活動の実践。指定の画材の購入。
事後学修	0.5時間	初等図画工作Ⅰの復習。作品制作の過程を振り返り考察を深める。技法についてまとめ理解を深める。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50％、提出作品50％
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。提出課題に未提出があった場合は、失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

つくる・見る・学ぶ美術の基 本	京都芸術大学美術教育研究会 なし	日本文教出版	978-4-536-64999-5	初等図画工作1の教科書と同 じ
参考資料				

科目名	初等図画工作Ⅱ			担当教員	齋藤 正人	
単位	1単位	講義区分			ナンバリング	ED3SRE105
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ の要素	ｸﾞﾙｰﾌﾞﾜｰｸ					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や、児童の表現の理解について講義演習を行う。					
到達目標及びテーマ	初等図画工作Ⅰを踏まえ、創造的思考や技能を培うことを通して、こどもにとっての表現の意味や意義について考えることができる。また、鑑賞教育の可能性について理解できる。					
授業の概要	デザイン、絵画、立体、版画、鑑賞等の演習をおこなう。技法、技術、創造的思考の修得に加え、制作の過程の重要性を知る。					

授業計画	
第1回	教科の目的と内容。教室、用具の説明。 意欲的にとりくみ、自己の表現を探る。
第2回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ーデザインの意味
第3回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ー参考例の鑑賞
第4回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ー本制作 デザインする意味を考える。
第5回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー主題について
第6回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー画材の活用
第7回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー表現技法
第8回	立体演習「カービング、モデリング」ー立体表現の可能性
第9回	立体演習「カービング、モデリング」ー粘土での制作
第10回	立体演習「木工、金工、陶芸」ー匠の技鑑賞
第11回	立体演習「木工、金工、陶芸」ーテラコッタ粘土での制作。彫塑、工芸に関する技法、表現の理解。
第12回	版画演習「凸版、凹版」ー版画技法について
第13回	版画演習「凸版、凹版」ー木版画 構図・彫り
第14回	版画演習「凸版、凹版」ー刷りの効果。版画技法の理解
第15回	鑑賞演習 鑑賞の楽しみ方を理解し、子供の鑑賞活動のあり方について考える。

事前学修	0.5時間	身近なものを色、形、用途などの視点から見つめる。遠近法についての予習。彫刻、工芸作品の鑑賞。作品の構想を練る。美術館、ギャラリーでの鑑賞活動の実践。指定の画材の購入。
事後学修	0.5時間	初等図画工作Ⅰの復習。作品制作の過程を振り返り考察を深める。技法についてまとめ理解を深める。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50％、提出作品50％
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。提出課題に未提出があった場合は、失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

つくる・見る・学ぶ美術のき ほん	京都市立芸術大学美術教育研 究会	日本文教出版	978-4-536-64999—5	初等図画工作Ⅰの教科書と同 じ
参考資料				

科目名	初等図画工作Ⅱ			担当教員	高田 吉朗	
単位	1単位	講義区分			ナンバリング	ED3SRE105
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
‘アクティブ・ラーニング’の要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や、児童の表現の理解について講義演習を行う。					
到達目標及びテーマ	初等図画工作Ⅰを踏まえ、創造的思考や技能を培うことを通して、こどもにとっての表現の意味や意義について考えることができる。また、鑑賞教育の可能性について理解できる。					
授業の概要	デザイン、絵画、立体、版画、鑑賞等の演習をおこなう。技法、技術、創造的思考の修得に加え、制作の過程の重要性を知る。					

授業計画	
第1回	教科の目的と内容。教室、用具の説明。 意欲的にとりくみ、自己の表現を探る。
第2回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ーデザインの意味
第3回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ー参考例の鑑賞
第4回	デザイン演習「ポスター、カード制作」ー本制作 デザインする意味を考える。
第5回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー主題について
第6回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー画材の活用
第7回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」ー表現技法
第8回	立体演習「カービング、モデリング」ー立体表現の可能性
第9回	立体演習「カービング、モデリング」ー粘土での制作
第10回	立体演習「木工、金工、陶芸」ー匠の技鑑賞
第11回	立体演習「木工、金工、陶芸」ーテラコッタ粘土での制作。彫塑、工芸に関する技法、表現の理解。
第12回	版画演習「凸版、凹版」ー版画技法について
第13回	版画演習「凸版、凹版」ー木版画 構図・彫り
第14回	版画演習「凸版、凹版」ー刷りの効果。版画技法の理解
第15回	鑑賞演習 鑑賞の楽しみ方を理解し、子供の鑑賞活動のあり方について考える。

事前学修	0.5時間	身近なものを色、形、用途などの視点から見つめる。遠近法についての予習。彫刻、工芸作品の鑑賞。作品の構想を練る。美術館、ギャラリーでの鑑賞活動の実践。指定の画材の購入。
事後学修	0.5時間	初等図画工作Ⅰの復習。作品制作の過程を振り返り考察を深める。技法についてまとめ理解を深める。
フィードバックの方法	個別にコメントするほか、総合評価を説明する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価		100%	授業への参加度50％、提出作品50％
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。提出課題に未提出があった場合は、失格となる。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

つくる・見る・学ぶ美術のき ほん	京都市立芸術大学美術教育研 究会	日本文教出版	978-4-536-64999—5	初等図画工作Ⅰの教科書と同 じ
参考資料				